

文芸評論家の三浦雅士さんは著書『青春の終焉』（講談社学術文庫）のなかで、青年は近代になってから発明された概念であると述べている。◆社会に出る時間を、遅い人たちで 20 代前半まで猶予を与えたのはまぎれもなく大学を最終段階とする教育制度だろう。青年あるいは青春…三浦さんの評論に出会ってからというもの、わが身を振り返りつつ、なかなかありがたい“発明品”だと思えるようになった。◆極論すると、制度そのものが国民の財産といえるかもしれない。そこに変化を加えようとすれば、いちいちニュースになる。◆来年度に始まる大学入学共通テストで、国語と数学の記述式問題が見送られることになった。英語民間試験の導入延期とともに、入試改革は二つの柱を失うことになる。短期間に 50 万人の採点をミスなく行うことなど、諸課題の克服を困難と判断したためという。どこか省の頼りなさは否めないとしても、改革に意義がないということにはなるまい。◆暗記中心の欠点は指摘されて久しい。せっかくの発明品なのだから、修理すべきところは修理しないと。

20191218 読売新聞記事 「パリでメダル がんばります」

池江選手 退院

白血病を公表し、入院治療していた競泳女子の池江璃佳子選手（19）（ルネッサンス）が 17 日、自身のツイッターを更新し、退院していたことを明らかにした。池江選手は直筆のメッセージも公開し、「2024 年のパリ五輪出場、メダル獲得という目標で頑張っていきたいと思います」と記した。

池江選手は現在の心境について、「病気になったからこそわかること、考えさせられること、学んだことが本当にたくさんありました」とつぶった。また、「辛くて長い日々でしたが、皆様からの励ましのメッセージを見て、早く戻りたいと強く思うことができました」と感謝の気持ちも表した。

所属事務所によると、池江選手は 2 月に急性リンパ性白血病と診断された。抗がん剤試料中に合併症を引き起こしたが、造血幹細胞移植を経て体調が回復。12 月上旬に退院した。関係者によると、20 年東京五輪出場は断念したという。今後も通院治療を続けながら、体調を見て陸上トレーニングから再開する。

2月より入院生活を、約10月の月日が経ち
この産後経過が順調に進んで
早く退院したいと思う気持ちが強くなってきました。早く退院して
早く戻りたいと強く思う気持ちが強くなってきました。早く退院して
関係者の方、ご心配には感謝の気持ちです。がんばります
入院中、医師の治療のおかげで、体調は徐々に回復してきました。
その間はとにかく「大丈夫、大丈夫、いつか退院する」と自分に言い聞かせること
を心がけて、医師の指示を守りながら、安静に過ごすことにしました。
戻りたいという気持ちが強くなってきました。早く退院して、私は病気は
なりましたが、学ぶことがたくさんありました。学んだことが本当にたくさん
ありました。皆様からの励ましのメッセージを見て、早く戻りたいと強く
思うことができました。早く退院して、私は病気はなりましたが、学ぶこと
がたくさんありました。学んだことが本当にたくさんありました。

2019.12.17 池江 璃佳子